

第29回 関西広域連合協議会

1 日 時 令和7年9月23日（火・祝）13：00～15：23

2 場 所 NCB会館 2階 「松の間」

3 出席者

協議会委員（32名）

秋山喜久会長、新川達郎副会長、高木正皓委員、中田力文委員、
武知実波委員、濱崎加奈子委員、榊元政明委員、草野とし子委員、
丸山美津子委員、岩橋正悟委員、鶯春夫委員、前迫ゆり委員、
清水順子委員、植村信吉委員、市場美佐子委員、青木利博委員、
安井美佐子委員、山田勝利委員、小柳秀吉委員、大神芽吹委員、
白木宏司委員、佐野由美委員、松下京平委員、水野真彦委員、
田中和子委員、松本典子委員、加藤恵正委員、辻村琴美委員、
石嶋瑞穂委員、正阿彌崇子委員、松林安美委員、青木正繁委員

関西広域連合（12名）

三日月大造広域連合長、西脇隆俊副広域連合長、宮崎泉委員、
平井伸治委員、後藤田正純委員、渡邊繁樹副委員、福谷健夫副委員
竹内重貴副委員、山本剛史副委員、佐小元士副委員、
小松恵一副委員 池田頼昭兵庫県防災監

4 議 事

[事務局]

それでは、定刻でございます。ただいまから、第29回関西広域連合協議会を開会いたします。私、関西広域連合本部事務局、土井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の会議は、公開で行います。また、報道関係者、広域連合議会の議員の方々、連携団体のほか、傍聴者がいらっしゃいます。インターネットでライブ配信も行っておりますので、あらかじめご了承くださいと存じます。

次に、ご出席者のご紹介でございますが、時間の都合により、お手元にお配りしております名簿、配席図、こちらの配付にて代えさせていただきます。

また、本日はこちらでございますけれども、三日月広域連合長、西脇副広域連合長ほか、広域連合委員等が出席してございます。こちら名簿でご確認ください。

失礼して、座らせていただきます。協議会委員の皆様には、去る9月1日付で再任の方も含めまして、新たに委員にご就任をいただきました。任期は2年間でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(1) 正副会長選任

[事務局]

本日は、新しい任期が始まりましてから初の会議ということでございますので、まず会長と副会長、こちらを最初にお決めいただくという、こういうことになります。会長と副会長は、協議会の規定によりまして、委員の互選により定めるというふうにされております。どなたか委員の中からお推薦はございませんでしょうか。

特にないようでございますので、失礼ながら、事務局案をご提案さしあげた

く存じます。当広域連合協議会ではこれまで28回にわたりまして、様々なご意見を頂戴し、そうしたことを広域連合の施策に反映させてまいりました。今後も活発な意見交換を行っていただきますように、これまでの実績を踏まえまして、会長には秋山喜久委員、そして、副会長には新川達郎委員がそれぞれ再任されるのが適当であると考えております。皆様、事務局案でいかがでございましょうか。

(拍手)

[事務局]

ありがとうございます。今拍手をいただきました。

それでは、事務局案のとおり、会長に秋山喜久委員、副会長に新川達郎委員がそれぞれ再任されました。

お2人には、それぞれ会長席、副会長席へのご移動をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

ありがとうございます。ご準備よろしゅうございますでしょうか。

それではまず最初に、秋山会長からご挨拶をお願いいたします。

(2) 会長挨拶

[秋山会長]

秋山でございます。ただいま会長にご指名いただきましたので、全力をもちましてこの任務を果たしていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。委員の皆さん方には、大変お忙しい中をご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、皆さんお読みになったかと思えますけど、先日の新聞に「天国とつながるポスト」が設置された。これは福井県でございますけども、という記事が

載っておりました。亡き人に思いを残された人々がこのポストの中に投稿して、ひとときのなぐさめを得ていたということでございます。

さて、この広域連合をはじめ、地方公共団体は、物質的に貧しい人を救うことは任務になっておりますけれども、精神的に困っている人をどのように救っていくかということはこれからの地方自治体の責務ではないかというふうに思います。皆さん、例えば、公共用地の余剰部分などにポストを設置いたしまして、亡き人に対する思いを投稿するといったことも1つの試みではないかと思います。地方自治体におかれましては、これまで物質的な困った人の救済ということを中心にしてきていましたけれども、これだけ複雑化する社会にありましては、精神的に困っている人をどういうふうに救っていくかということも1つの任務ではないかというふうに思います。

本日は時間が限られておりますけれども、皆様から忌憚ないご意見を賜りますようお願いいたしまして、甚だ簡単ではございますけれども、開会の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

[事務局]

秋山会長、どうもありがとうございました。

それでは、ここから先の進行は、秋山会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(3) 広域連合長挨拶

[秋山会長]

それでは最初に、三日月連合長からご挨拶をお願いいたします。

[三日月広域連合長]

改めまして、今日はお彼岸の中日、それぞれお忙しいところをこのようにお時間をいただきましてご臨席賜りましたこと、また新たに第8期委員に加わっていただいた方々を含め、この関西広域連合協議会の委員をお務めいただいておりますことを心から御礼を申し上げたいと存じます。ただいまご紹介いただきました、当関西広域連合広域連合長を現在拝命しております、滋賀県知事の三日月と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この関西広域連合は、2010年に発足いたしました。府県を越えて、広域自治を推進していこうと、東京一極集中ではなくて、地方分権、受け皿になっていこうじゃないかと、国の権限を地方で担い、より身近な場所で意思決定をし、果敢に様々な挑戦をしていこうということで設置された、日本で最初の府県を越えた広域自治体であり、現在も唯一のそういった自治体になっているところでございます。15年目を迎えまして、この広域連合をさらに発展・進化させていこうということで、この協議会委員の皆様方との対話も大変重視しているところでございます。今日は限られた時間ではございますが、それぞれの見地から様々なご意見・ご提言を賜れば幸いです。

3点申し上げます。1点目は、この関西広域連合の方針をつくります、第6期の広域計画を来年度からスタートさせるべく、現在議論を積み重ねているところでございます。お手元や、また事前に皆様方にも資料等をお配りしていることもあろうかと思いますが、関西広域連合がどういうことを目指し、またどういうことを重点的に取り組んでいるのかということをご確認いただき、その肉づけになるようなご意見等もいただければ幸いです。先ほど秋山会長からお話がありましたように、物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさを大事にできるエリアは、むしろこの日本の中では関西じゃないかという、こういう自負も持ちながら、様々な取組をつくろう、また世界に発信しようと

しているところでございます。

大きな2点目は、現在、関西広域連合、5つの力を高めようということを申し上げております。前回のこの協議会の場でも申し上げたかもしれませんが、1つ目は、防災力の強化でございます。阪神淡路大震災から30年がたち、東日本大震災、また熊本震災、能登震災、複合災害、様々なものを乗り越えるべく知見を集めていこうと、先般も兵庫県で創造的復興サミットということで、様々な被災地の思い、教訓、経験を共有しようという、こういう意義ある取組もなされたところでございますし、南海トラフの大地震が近く想定されるということもございますので、こういったことにどう立ち向かっていくのかと、防災庁設置については、むしろこういった経験のある関西に拠点を置くべきじゃないかという、こういう提言も今経済界の皆さんと一緒にしているところであります。防災のことといえば関西だという、こういう自負を持って様々な取組をつくっていきたいと思っております。

2点目は、産業力の強化でございます。ご案内のとおり、この関西は日本の経済の中心地でもあり、様々な産業分野の集積もなされておりますし、大学や研究所などとの連携も進んでいるところであります。大阪・関西万博で様々なテクノロジーの挑戦や発信もされているところでありますので、次の世代を見据えた新たな産業をこの関西の中にしっかりとつくり、広げていく、そういう取組を行っていきたいと思っております。

そして3つ目の力は、文化力であります。京都に文化庁が移転をしてきましたし、日本の様々な源流となる文化は、関西から生まれ、つながってきたと言っても過言ではないという、こういう思いも持ちながら、この文化の力で関西と日本を元気にしていこうという、こういう取組をぜひさらに発展をさせていきたいと考えております。

4点目は、環境保全力、環境力と言ってもいいでしょう。この環境を守りな

から経済を発展させていく、暮らしを豊かにしていく、こういう取組を皆さんと一緒につくっていきたいと思います。私は今日、伊吹山の麓から参りましたが、琵琶湖の源流ですね、水のつながりがこの関西にはございます。だからといって、隣に京都の知事がいらっしゃいますが、水を止めたろうかとか、なかなか言えないんです。そういった様々な歴史も乗り越えながら、こういった自然のつながり、人間だけではなくて様々な生態系を大事にする、そういう関西を皆さんと一緒につくっていきたいと思っております。

最後、5つ目は、広域自治力です。冒頭に申し上げたように、府県を越えた広域自治行政をやっているのは、ここ関西だけでございまして、議会も今日は渡辺議長にお越しいただいておりますが、議会もあって、7つの広域事務があって、ほぼ月に1回私たち市長、知事、副知事、副市長などが顔を突き合わせて様々な議論をしている、こういったところはほかにありませんので、この強みを生かしながら、さらにどういったことに取り組んでいくべきなのかということ協議会委員の皆様方ともぜひ一緒に考えていけたらいいなと思っております。そのための「新たな広域自治・行政のあり方研究会」を今般立ち上げることになりまして、来月から議論を始めることにさせていただいているところですので、ぜひこういった議論にも様々なご注目をいただければと考えております。

大きな3点目は、いよいよフィナーレを迎えます大阪・関西万博、大変多くの方にお越しいただいているこのレガシーを、例えば人権ジェンダーの面でどのようにつないでいくのか、テクノロジーの面でどうつないでいくのか、そういった事々をぜひ皆さんと一緒に考えながら、あの大阪・関西万博をやった関西だから、こういったことができたんだという、こういったことを皆さんと一緒につくっていったらいいなと思っているところでございます。

ぜひ今日のこの場も様々な有意義な意見交換ができますことをご期待申し上げます。

げ、冒頭、私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
します。ありがとうございました。

[秋山会長]

どうもありがとうございました。

(4)意見交換

【今後の施策、事業の展開について】

[秋山会長]

それでは、議論に入りたいと思います。冒頭に申し上げましたとおり、事前に意見をいただいている方から発言をいただき、その後、自由に発言していただきたいと思います。

では、これからの進行は新川副会長にお願いいたします。

[新川副会長]

副会長を務めさせていただきます、新川です。よろしくお願いいたします。

ただいま秋山会長からご案内がありましたとおり、委員の皆様方からご意見を頂戴してまいりたいと思いますが、事前にご意見を提出いただいた方から順次指名をさせていただきたいというふうに思います。

大変恐縮ですが、観光・文化・スポーツ分野からご意見をいただいてまいりたいと思います。まず最初に、高木委員からお願いをいたしたいと思います。
よろしくお願いいたします。

[高木委員]

兵庫県の高木正皓でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私は関西広域連合協議会の会議の持ち方について意見を申し上げたいと思っています。協議会の会議の持ち方については、現在の方法のほかに、分野ごとに委員間で情報交換及び協議を行うことにより、より今日的な課題や方策を専門的レベルで深めることが期待できます。

また、それが行政にも反映できるものと思われます。例えば、観光・文化・スポーツの分野においては、国が力を入れている「スポーツツーリズム」、あるいは「スポーツコミッション」の実現や振興についての課題、方策等について意見交換、協議し、実現、充実、発展を図り、関西をスポーツツーリズムの先進化、生涯スポーツの先進地域化、スポーツの聖地化、こういった実現を目指すとともに、いよいよ開催まで2年を切りました、ワールドマスターズゲームズの開催の成功とともに、大会前・大会後の充実を図っていききたいと、このように考えております。

以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。

それでは引き続きまして、同じく観光・文化・スポーツ分野から、武知委員、よろしくお願いいたします。

[武知委員]

ありがとうございます。徳島県サーフィン連盟より参りました、武知と申します。よろしくお願いいたします。

私からは2点、提言をさせていただければと思います。まず1点目、事前にこの提言書を作成するに当たりまして、関西広域連合さんのホームページを拝見いたしまして、その際に、障害者スポーツ情報という項目がございまして、

そこにはほかの項目だと、そこにいろいろな年間行事のようなスケジュールがあったのですが、障害者スポーツ情報のページに具体的な事例がありませんでした。今確認できていないので、もし更新していれば教えていただきたいのですが、また今後掲載される予定だと思うのですが、やはり障害があってもなくても、皆さんが広くスポーツに携われる、そして人生をより豊かにするというのは、非常に広域を越えても大事なところだと思いますので、これに関する積極的な活動をつくり上げるところ、そしてその掲載をお願いできればというふうに思っております。

また2点目になるのですが、こちらでも事前に資料を自分で見てみまして、「関西広域スポーツ振興ビジョン概要」という令和4年の資料になるので、少し前になっちゃうと思いますけれども、こちらで女性のスポーツ実施率が低い課題というのを認識されておりまして、これに対して、女性のニーズや健康課題の解決が見込まれるスポーツの普及啓発を行うというふうに、対策が言及はされているのですが、女性のニーズというもののどういうふうに把握されているのか、そしてどういうふうに発表されているのかというところをお聞きしたいというところです。また男女問わずに、やはり近年共働きの家庭が通常になっていますので、仕事が家事が忙しいからという理由で、日常的なスポーツを諦める方も多いというふうに伺います。この課題は、スポーツ業界にいても感じるころではあるのですが、個人だけではなくて、やはり要因は社会にもあるというふうに考えております。なので広域連合さんとして実施されている、または実施していきたいと思っているスポーツを継続できる環境、誰もがスポーツを続けられる環境というのをどういうふうにつくっていくのかというところについてお聞かせ願えればと思います。

以上、2点になります。ありがとうございます。

ありがとうございました。スポーツ振興ということで、特に女性や、あるいは障害のある人たちのスポーツの問題を取り上げていただきました。ありがとうございました。

[市場委員]

私からは2点ございます。まず1点目、災害ボランティアバスをはじめとする、災害ボランティア支援の取組についてです。大規模災害が発生した際、被災地での支援活動を希望するボランティアは、地域社会の復旧にとって非常に重要な存在です。しかしながら、災害直後は交通インフラが損傷している場合が多く、被災地までの移動手段の確保は、ボランティア活動における大きな課題の一つです。例えば和歌山県では、被災地支援として2011年より災害ボランティアバスを運行していただいております。私もこのボランティアバスをいつも利用させていただいております。私もこのボランティアバスをいつも利用させていただいております。私もして、大変助かっております。関西広域連合としても、ぜひ災害時におけるボランティア活動の円滑な実施に向けて、各構成団体と連携した支援を引き続きお願い申し上げます。

– 11 –

私たち家族も例外なく、肺疾患を抱えた者がおりますので、車を使い、高台へ避難いたしました。車の渋滞に加え、駐車場所の確保も困難な上に、熱中症のリスクにさらされる結果となりました。また、自宅や出先で様子見をされていた方や、移動手段がない要配慮者や高齢者等は、避難を諦める住民もおられたようです。以前、2022年4月に南海トラフ地震事前避難及び発災時避難行動について、リスクの軽減のための意見を述べさせていただきました。今回の避難行動の課題を検証の上、広域避難も含め、対策をよろしく願いいたします。特に和歌山県に関しては、津波リスクが高いため、急務と考えております。

以上です。

[新川副会長]

ありがとうございました。市場委員からは防災に関わりまして、1つは、災害ボランティアの活動をいかに円滑化するか、広域的にもぜひ支援を考えていただきたいということ。

それからもう一つは、やはり避難に際しての様々な課題、とりわけ避難に困難を抱える方々が実際にたくさんいらっしゃる、そういう状況の中でどういう避難の対応をしていくのか、広域避難と併せて関西全体で考えてもよろしいのではないかとということでご意見をいただきました。ありがとうございました。

それでは引き続きまして、同じく防災分野から青木委員、ご発言をお願いできますでしょうか。

[青木利博委員]

神戸市から来ています、青木でございます。

それでは、南海トラフ地震時の帰宅困難者対策ということについてお話をさせていただきます。大阪・関西万博において、8月に地下鉄の運行トラブルに

よりまして、1万人以上の方が帰宅困難となるような事例が発生をいたしました。パビリオン等の受入れ等によりまして、大きな事故もなく無事に解消されました。こういったことが多分南海トラフ地震が発生した場合には、もっと大きなことが関西一円で発生するのではないかというふうに思われます。現在まで、関西広域連合及び各自治体において帰宅困難者対策というのは、毎年いろいろな形で取り組んでいるというふうに思われますけども、さらに住民やら、あるいは来訪者のPRを進めていく必要があるのではないかなというふうに思います。東日本大震災のときには、関東で大きなニュースになりまして、世間の注目を浴びましたが、また時間が過ぎて関心が薄れているというこの時期に発生をしたということもありまして、今一度必要性を感じているこの時期に、さらに帰宅困難者対策というのを再PRして、無事に事故もないような対策を取っていくことが大事ではないかなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。青木委員からは、特に災害時の帰宅困難者問題について、少し忘れかけているのではないかと、しっかりと周知広報、そして対策の徹底を図っていただきたいということでご意見をいただきました。ありがとうございました。

それでは引き続きまして、コミュニティ等の分野からお願いをいたしたいと思います。安井委員、よろしくお願いいたします。

[安井委員]

失礼いたします。私はベアドッグについてお話をさせていただきたいと思い

ます。最近熊が里に下りてきて、毎日のようにテレビで報道されています。全国で話題になっておりますけれども、亡くなられたり、大きなけがをされたニュースを聞かない日はないぐらいです。ご多分に漏れず、私の住む京丹後市でも保育所のグラウンドに熊が出て、外で遊べないなど、日常生活を脅かされています。日本でも成功しているベアドッグの育成をこの広域連合でしていただいて、各県で起こっている熊の被害と、人の安全・安心につながる活動ができればと思っています。ベアドッグというのは、熊の匂いを鋭く察し、そして大きな声を出す犬のようです。これは熊も殺さずに済みます。先日も人をかみ殺したということで、子熊まで射殺されました。親がいないと生きていけないかもしれないのですけれども、何だか心が痛みました。ぜひ鳥獣対策の推進と同様に、時間はかかっても、この活動を広域連合の各府県で協力してご検討をお願いいたしたいと存じます。

以上です。

[新川副会長]

ありがとうございました。安井委員からは、特に獣害対策、同時に環境問題でもあるのですが、熊の問題についてお話をいただきました。そしてベアドッグという仕組みを取り入れてはどうかということでご提案をいただきました。また後ほど広域連合委員からもお話をいただければと思います。

引き続きまして、同じくコミュニティ分野から、小柳委員、よろしくお願いいたします。

[小柳委員]

小柳秀吉と申します。徳島から来ました。私は初参加になりまして、今回私の専門は観光分野でもあるので、2点お話しできればと思っています。冒頭、

三日月知事もお話しされた万博が10月でいよいよ終わりになるかと思いますが、私もここに来る前にいろいろ見てきた「関西ツーリズムグランドデザイン2025」というのを多分つくられていて、方向性をいろいろ定めて、2025という名称がついているように、万博までを一つのゴールとしていろいろな施策とか方向性のビジョン、戦略等々をつくられていると思うのですが、この大阪・関西万博後の、今度どういうふうにしていくのか、今後増え続ける訪日外国人をどうさらに迎え入れていくのかとか、私たち徳島の視点からいうと、唯一四国の中での県でありますけれども、さらに四国のほうに人が流れてくるのかというところも含めてのビジョン戦略とか、今後の2030とか2035とかに向けた施策というのが必要なのではないかなというところを思ったので、そこが気になりました。

2点目が、徳島という場所から今日も参ったのですが、やはり交通インフラというものが、これは長年の課題ではあると思うのですが、課題になっているかなと思っています。今のところ陸路、車、自家用車やレンタカー、バスを通じて四国のほうに来てくれる方々もツーリズムの視点だとあるのですが、今後計画にもあるように、中央新幹線、リニアが関西まで伸びて、さらにそこから四国のホームに向けた構想みたいなものとか、四国内の新幹線みたいな構想もあると思うのですが、そういった形でさらに西のほうに向けた陸路のインフラというものがきちんと整備されていくのかとか、あとはそういった時間軸、すごく長いので、直近でいえば空路とか海路、空と海というのがまだまだ活用のしがいがあるかなと思うので、視点としては、観光の視点でそういう関西方面から四国のほうに移動手段として渡すことができるようなものが増えればいいですし、防災の観点からいっても、そういった急遽人を運ぶだとか、いろいろな物資も含めて、運ぶというトライアンドエラーができるんじゃないかなと思っているので、この移動手段、交通インフラみたいなものは私の視点

だと観光になるのですけども、防災の観点でももう少しアグレッシブにどうか、積極的にいろいろなトライアンドエラーができれば面白いんじゃないかなと思いました。

以上です。

[新川副会長]

ありがとうございました。小柳委員からは1つは、この大阪・関西万博、このレガシーというのをどういうふうにこれから活かしていくのか、問題提起をいただきました。

もう一つは、交通インフラというのを観光や防災とも関連づけて、さらにどういう方向で整備をしていくのか、まだまだ海・空、そして鉄路を含めて開発余地というのが大きいのではないかとということで、問題提起をいただきました。後ほどまた各委員からご意見もいただければと思っております。

それでは引き続きまして、同じくコミュニティ等の分野でご参画いただいております、佐野委員、ご発言をよろしくお願いいたします。

[佐野委員]

21世紀職業財団、佐野でございます。よろしくお願いいたします。

私は少し幅広い視点から、ダイバーシティ先進地域になるために、女性とか若者に選ばれる関西を目指してということでご提言したいと思います。冒頭、三日月連合長が5つの力とおっしゃいましたが、それを支えるのは次代の若者たち、女性たちです。ところが関西圏にたくさん高校、大学があるのですけれども、学生さんに聞くと、もちろん地元で貢献したいけれども、いい企業とか自分が活躍できるような職場とか環境がまだまだ整っていないということで、心ならずも首都圏とか東のほうに行ってしまうのです。昔の70年代の太田裕

美の木綿のハンカチーフじゃないですけども、あれは男の人が東のほうに行きましたけど、今は女の人も東のほうに行って、男の人が地元でハンカチで涙をぬぐっているという、そんなことをよく聞きます。なので、女の人がなぜ地元根づかないのか、今日は学生さんもいらっしゃいますけど、ヒアリングを財団でしましたらば、やはり偏った配置転換であるとか、あるいはお茶くみをいまだにさせられているとか、あるいは、なかなか自分たちが伸びるようなキャリアを形成できないような環境になっているというふうなことがありました。また、今日は西脇知事がお見えですけども、西脇知事のところではもう10年以上前から、京都府の職員センターで京都だけじゃなくて、今は広域連合全域に声をかけて、女性の職員さんで、リーダーを担うような方々を集めての研修をしております。私も講師を務めているわけですが、その方々ともお話をしましたらば、面白いことに、女性が飲み会の際に偉いさんの横に座らされるとか、あるいは大して親しくないんだけど、花束を渡すのは女性だとか、なぜか女性のほうにそういうことがあって、なかなか男女ジェンダー的なところが取っ払われていないという話も聞きました。21世紀職業財団でも、そのあたりのところは毎年調査・研究しております、先般、男女四千数百人を対象にインタビューとウェブ調査をしました。そうしますと、一皮むける経験をしているかどうかということとか、あるいはマミートラックに陥っているかどうかとか、あるいは男の若い社員がいて、子供さんがいて、本当は早く帰って育児・家事をしないといけないだろうけれども、上司が躊躇なく残業を命ずるかどうかですね、そのあたりのところが全部首都圏と関西を比べると、関西のほうが残業を躊躇なく、子供さん、ベビーがいても任せる上司が多く、上司は残業をすごくしていて、そして男性の育休取得率も極めて低いということがデータでも出てきました。なので何が言いたいかというと、このあたりのところは社会的な構造問題もあるのですぐには変わらないのですが、私の提案として

は、京都府でされているリーダーの女性候補の研修、これをいわゆるオールドボーイズ、要は政策決定をする人たちですね、その部局の方々にも対象としていただき、一緒に研修をする。これが一番効果的だと思います。もちろん1回、2回では変わりません。変わりませんが、対話をする場を広域連合、せっかくそういう場があるので、レガシーとして、関西万博のダイバーシティを残すのであれば、そういう取組であればすぐにできると思いますので、ぜひやっていただきたいと思います。

以上です。

[新川副会長]

ありがとうございました。佐野委員からは、女性が本来の能力を発揮できる社会に関西がなっていないんじゃないかというご意見をいただきました。そのためにも様々な研修機会というのを設けてはどうか、それから特に、そうしたいろいろなバイアスをお持ちになりやすい方々について、意識と行動を変えていただくような、そういうプログラムを積極的に進めてはどうかということでご提案をいただきました。関西広域連合としてもしっかり取り組んでいかないといけないかもしれません。後ほどまた連合委員の皆様方からお話しいただければというふうに思っております。

それでは引き続きまして、公募でご参画をいただいております各委員からお話をいただければと思います。

最初に辻村委員、よろしくお願いいたします。

[辻村委員]

ありがとうございます。本日は皆様、お集まりいただきまして、ありがとうございます。意見を言う前に、私は滋賀県に住んでいるのですが、野洲というところから来ています。最近、私たちの生活の周辺で非常に変化があったとい

うことを皆様にご報告したいと思います。多分これは滋賀県のリーダーの三日月会長のリーダーシップと揺るぎない信念というのが結実したのが今になっているかなというのを実感してちょっと思っているのです。1つは万博、私も行かせてもらいまして、滋賀県のブースの中に滋賀県をご紹介する映像があるのですが、この映像の中に、私のダーリンは辻村耕司というカメラマンですけれども、野洲にあります、生きものふれあい田んぼの動画を採用していただいて、比叡山延暦寺から始まる人々の暮らしを360度の視界で映像を映し出します。市田さんがプロデュースしたのですが、おかげさまでデザインの金賞をいただきまして、どうもありがとうございます。ここで言うのもなんですけど、非常に万博、よかったなと思っております。間もなく来週から国スポ・障スポが滋賀県で行われます。駅では国スポ・障スポという飾りづけとかもされておりますし、私の娘は野洲市卓球協会の理事長をしているのですけれども、広報委員ということで、野洲市総合体育館で仕事をしながらボランティアで詰めるという、そういうお役目もいただいております。国スポ・障スポが行われることによりまして、私の近くに湖南幹線という道路が通りまして、便利になったこと、インフラもこんなに立派になるのかと思いました。それに関連いたしまして、県立美術館で「おさんぽ展」というのがあるのですが、美術館で国スポ・障スポを応援したいと。どうするのかなと思いましたが、ウォーキングもスポーツだ、スポーツといったら皆、敷居が高いから、お散歩と言い直そうということで、空也上人から漫画家の谷口ジロー氏まで散歩をしている、美術を散歩という、非常に簡単なワードで紹介している。すごく学芸員さんと保坂館長が頑張ってくれたと思います。一度見に来てください。お散歩というテーマでこれだけのものが美術としてあるのかというのが流れとして分かります。その上で、私は野洲から来ているのですが、「しがモック」という近江富士花緑公園の中にあるのですが、教育センターの中にあらゆる種類の木のおもちゃを

備えた施設を造ってくださって、すごく人気なのです。今日も500人ぐらい並んではと思うのですけれども、入場制限ができるぐらい賑わっています。2時間前から100人並んで、子供さんたちとファミリーが待っているという、そういうにぎわいを実際に体感させていただきました。信念を持ってやっていったら、今まで「野洲なんておいでやすと言っているだけやからあかんわ」と思っていましたけども、いいまちになりそうだなというのをちょっと体感しました。これが前段ですけれども、本題に入ります。

連携から総合ガバナンスへということです。連携から統合的ガバナンスへと進化すること、そして市民にとって分かりやすくメリットが実感できる広域行政モデルをつくることが大事だと思っています。第6期の広域計画の取組方針では、共通した目標を持つことが大切だと思います。地域、関西の各府県、市町村ごとにこんな〇〇に住んでみたいという夢と未来の地域像を住民で話し合える場をつくり、目指すべき関西の将来像を具体化できるよう、進化する関西人を育成したいと思っています。そのためには同じ地平に住む一員として、理念を共有できればいいですね。関西には自然、文化、歴史、生業、祈りという先達が培ってきた累々たる共通概念があります。季節の行事や自治活動は、共同生活のつながりの確認作業でもあり、それが共通理念と言えましょう。各地域の未来像を共有し、集約して進化することが関西広域連合の役割だと思います。そのためには、子供さんにも分かりやすいキャッチフレーズや目標や指標が欲しいです。主役は住民、関西広域連合は、そのフォロワーという立場であれば、必要性やメリットを感じられるのではないのでしょうか。今後も大いに関西広域連合に期待しております。

以上が私の意見でございました。ありがとうございます。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。辻村委員からはとてもすばらしい滋賀県野洲市の今をお伝えいただきました。大変新鮮にお伺いさせていただきました。ありがとうございました。

ご提言としては、やはり関西広域連合、今連携ということで進んでいますが、さらに一層の統合をしていってはどうか、共通の目標に向けて一体的に進むような、そういう関西広域連合にどうしていくのか、新たな広域計画でもしっかりと目標を見定めて、それに向けて進んでいく、そしてそれを分かりやすく関西圏域の住民の皆様方に理解しやすい形でお示しする、それも子供たちにも分かりやすくということでご注文をいただきました。ありがとうございました。

それでは同じく、公募でご参画いただいております、石嶋委員、よろしくお願いいたします。

[石嶋委員]

よろしくお願いします。初めて参加させていただきます。大阪の池田市からやって参りました、石嶋と申します。

私から大きく分けて2点、私が代表を務める一般社団法人ですけど、チャームینگケアというところでやっているのですが、病気や障害のある子供と、その家族を対象に、地域での自立支援だとか、社会参加の支援を行っております。その中でアピアランスケア、ちょっと聞いたことがないかもしれませんが、病気、特にがんとかで外見の変化を伴うような治療をされた方にケアをするということがあるのですが、それについて当法人では、市区町村レベルで実施状況、その助成支援というのがあるのですが、その支援事業の実施状況を4年間連続で、自主的に調査をしております。調べた当初、全国で38%程度だった実施率が、今年4年目75.5%、約76%にまで上昇しました。これは非常に前向きな変化ですが、関西圏では未実施の市町村もまだ残って

いて、市区町村といわず都道府県がそれを実施するという傾向がだんだん出てきているのですが、具体的に言うと関西、今回の参加しているところだと京都・大阪・奈良・和歌山・徳島はまだ100%ではありません。なのでそんなところも残っているという状況と、さらにこの助成の事業をよくよく見てみると、女性のがん、特に乳がんに限定したような建て付けになっていると、そうすると子供、私が対象にしているのは子供ですが、がんってなるのは子供だけじゃないので、それ以外の年齢層だとか性別だとかという方に対応が十分とは言えないなというふうに思っています。それに伴いまして、私たちは国立病院と連携をして、小児がん経験者、なかなか子供って意見が言えないので、小児がん経験者を対象にただいま全国調査、意識調査をしています。どういうときにそれが必要なのかというところをまだ調査中ではあるのですが、もう既に分かってきているのが、復学支援、学校に戻るときの支援が足りていないというところが分かっています。私の子供も実は3人兄弟、一番上の子が小児がんを経験しています。私のときもそうでしたけども、やはり学校に戻るとき、非常にケアが少ないです。なのでその部分に関して関西では、関西と言わず、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業というものがあるのですが、それがなかなか活用されていない。制度はあるけどなかなか使われていないというこのギャップを埋めるために、現場のニーズを反映したような広域での情報共有が必要ではないかなと思ひまして、今日こちらでお話をさせていただきました。復学支援というところ、一口に言ひましても、いろいろあります。心のケアだとか、あとは勉強ですね、学習の支援も足りていません。それにやはり外見、言わばがんになると抗がん剤がありますので、髪の毛も抜ける、ちょっと顔もむくみ、人前に行くこと自体がちょっとはばかれるというところがあるので、そのケアも含めたことをご検討いただければと思ひまして、今日このご意見にさせていただきます。ありがとうございます。

[新川副会長]

ありがとうございました。本当にこれまで様々な病後、あるいは治療中のそれぞれの一人お一人の暮らし方が受けるその影響というのがとても大きかった、そしてそれを社会的にはほとんどケアするということができてこなかったという実態があったかと思います。ようやくそうしたところに目が向き始めていますが、むしろ関西広域連合、率先してこうした方々への対応というのをより総合的に進めるべきではないかと、とりわけ子供たちの問題についてご指摘をいただきました。このあたり、なかなかまだ市町村全てに行き渡っていないという、そういう実態も踏まえて、関西広域連合として何ができるか、ぜひご検討いただければということでご意見をいただきました。どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、公募委員から正阿彌委員、よろしくお願いいたします。

[正阿彌委員]

こんにちは。正阿彌と申します。兵庫県の西宮から参りました。

私は教育だったりとか環境の分野、そういったことをしているところがあるのですけれども、なので今回の提言というか、お話としては、広域的な視点と行動力を持つ人材育成がやはり大切だと思います。先ほど三日月連合長がおっしゃっていたみたいに、5つ目のところですね、広域自治力を持つために研究会を政治家の方であつたりとか行政の方とかはされていると思うのですが、市民が広域的な横断的なものを持った上でものを考えているかということ、そういう機会は今ないですよ。多分関西広域連合ぐらいだと思うのですが、でも市民の人たちは地に足がついた暮らしの課題や地域の課題を分かっている、そ

ういう人たちが広域的にそれを解決するにはどういったことができるかというのを一緒に行政の人や事業所の人、いろいろな方たちと話し合う機会を持つということは、やっていくときに、計画を進めるにも不可欠だと思うのです。ただ、そういった場がまだ少ないんじゃないか。今計画ごとには地域ではされているのですけれども、それが実際に政策に生かされるというところはもう少し工夫をされてもいいんじゃないかなというふうに思います。また、子供の意見ももう少し取り入れるというところは工夫が必要だというふうに思っていますし、先日、ミライカンサイサクセンカイギというのを初めて行って、私も参加させていただいて非常によかったのですけれども、その場がさらに政策につながって、その政策が実際に動いていくところを若い人たち、いろいろな人たちが見る、自分も関わっていける場というのをつくるというところにもう少し力を割いていただけないかなというふうに思っています。その際にもう一つ、情報という意味で、やはり他セクターがいろいろやっていく協働の場というのは2000年代からされていると思うのですけれども、今どういったものが成功だったり失敗も含めて、情報があるようでないのですよね。それは行政の方も担当の方も困っていらっしゃると思うので、関西広域連合でどうやったらその情報を集約というか、見られるような状態になっているか、あるいはそれを誰に聞けば実際のところが聞けるかというのが分かると、地域ごとに似たような課題があったら、誰かそこに聞いて一緒に勉強をしていく、そうすると視点も増えて、これが広域自治体としての力になっていくのではないかなというふうに思うので、そういった情報収集とともに、人材育成、そして実際に地域を動かす計画や政策につなげるという、この点に関してもう少し力を入れていただけるといいんじゃないかなというふうに思います。

[新川副会長]

ありがとうございました。正阿彌委員からは人材育成ということに関わって、やはり広域的に考える力みたいなものを市民の方々にも持ってもらうような、そんな学び方というのをご提案いただきました。そのためにも若い人たちの参加、そしてその参加がただ単に言いつ放しではなくて、政策に生きていくような、そういう参加の仕方がもっともっと広がるといいなということでご意見をいただきました。さらには、こうした状況というのを参加や協働の実態というのをもっと関西圏域でも共有できるような、そういう情報基盤、交流の場みたいなものがあったもよいのではないかとということでご意見をいただきました。どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、同じく公募委員でいらっしゃいますが、青木委員、よろしくお願いいたします。

[青木正繁委員]

徳島県から参りました、青木でございます。よろしくお願いいたします。

私からは、佐野委員さんと先ほどの委員さんから言っていた、やはり若者視点のご意見の発言をさせていただければと思ってございます。先ほど、実はそれを言おうと思っていて、前段の話です。前段は第6期の広域計画策定に係る住民参加型のミライカンサイサクセンカイギの公開ミーティングが一昨日に実はありまして、一昨日、そして今日というふうに2回大阪入りをさせていただいてございます。実は新川副会長さんと、また和歌山大学観光学部の大浦先生等と一緒にファシリテーターを務めさせていただいてございます。これは2回開催されておりまして、1回目が8月31日に、ファシリテーターは篠原先生、これはNPO法人京都子どもセンター理事の先生に仕切っていただきまして、公募参加者が25名、そしてつい先般、9月21日は4名の代表の方が報告と意見交換を行わせていただいております。これに関しましては先ほどもご

意見をいただいたとおり、やはり学生の皆さんから、いかに関西での暮らしや学び、働いている方の現状を把握して、この第6期計画の策定に入れろというのはなかなか難しいというのは、新川先生とも話はしたのですが、やはり学生の皆さんがこう思っているというのは、やはり聞く立場、私はこれをもう何年もやっているの、聞いて、じゃあそれをどうするんだというPDCAのサイクルの部分をそろそろ本当に本気で回さないといけないんじゃないかというふうに考えてございます。それと、そういった未来作戦会議のような場が必要であろうといったことで、やはりそれに付随して、平成28年から開催させていただいてございます、若者による意見交換会、今年で第10回目を迎える予定でございます。今年は私の地元で後藤田知事にも来ていただいております。徳島県で来年2月に開催予定でございます。ぜひともこの大学生との意見交換会、これはやはりテーマを決めて、プレゼン形式でやるのですが、ぜひ委員の皆さん、協議会委員のここにお集まりの皆さん、見てみてください。逆に見てみれば、こういう視点があるんだ、学生はこう考えているんだというすごい刺激になります。これは委員だけでなく、若手行政の皆さんにも聞いて意見交換をしてもらいたいです。そういうふうに思っているんだ、じゃあそういった政策・施策に活かせるんじゃないかという種がいっぱい落ちておりますので、その種をぜひとも来年は四国、徳島で拾っていただければと思ってございます。しゃべればずっとしゃべれるのですが、今日はこれぐらいにしておきますので、ぜひとも三日月知事、また牛をくれとは言いませんので、徳島はたくさん特産がありますので、これはもう後藤田知事がしっかりご用意していただいていると思っていますので、ぜひとも徳島へお越してください。よろしくお願いいたします。

発言は以上でございます。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。一昨日、ミライカンサイサクセンカイギを若者たちと一緒に、特に関西のエリアの将来像というのをどう考えるのかという事で、いろいろな未来の理想の姿と同時に、それに向けて何を解決していかないといけないのか、本当に斬新なアイデアをたくさんいただきました。全部ご紹介する時間はありませんけれども、ぜひ記録をご覧いただければというふうに思っております。青木委員のご紹介のとおりです。

加えて、若者の意見交換会、こちらも大学生からの政策提言を含めて、今後さらに活発に進めていただきたいということでご意見をいただきました。ありがとうございました。

本日ご出席の委員であらかじめご意見をいただいているのは以上の方々ですが、ご欠席でご意見をいただいている方々もいらっしゃいます。

お1人はびわこ成蹊スポーツ大学の石井委員から、特に2027年のワールドマスターズゲームズの成功ということ、それからそれに加えて、大学の資源というのを活用してはということで、特に大会成功のためにもボランティアとしての学生の位置づけ、このあたりをしっかりとっていただきたいということでご意見をいただいております。

それからお2人目、NPO法人智頭の森こそだち舎理事長の西村委員からは、この協議会の在り方について、実はご意見もあらかじめいただいてご出席いただき、ご発言をいただいた冒頭の高木委員と同様に、この会議の持ち方についてやはり分野ごとに比較的少数の方で集まってしっかり議論をする、そんな場があってもよいのではないかということでご意見をいただいております。これはまた、この協議会の持ち方としても考えないといけないなというふうに改めて思った点でございます。高木委員、西村委員どうもありがとうございました。

それから3つ目に、鳴門教育大学の池添委員からは、特に災害の問題に関わって、住宅の安全、本当に旧耐震住宅が多く残されていて、高齢者の方々もたくさんお住まいになっています。そういう状況に対して、本当に住民の方々がこうした住宅の状況についてしっかりと認識をし、そしてできるだけ早い段階で対策をしていただくような、そういう関西全体での取組というのが、南海トラフがこれほど緊急になってきている、そういう状況の中では必須ではないか。ということで、こうした住宅の安全についての学びの機会というのを関西で考えるということが必要ではないかというご意見をいただいております。

それからもう一点、公募委員で友松委員からいただいておりますのは、特に観光をさらに振興してはということで、関西を巡るツーリズムというのを考えてはどうかということで提案をいただいております。関西の共通のテーマをもってツアーをつくっていったらどうかということで、聖徳太子であるとか、あるいはいろいろなパワースポットもたくさんありますので、そんなものをツアーとして組んでみてはどうだろうかということでご提案をいただき、関西広域連合ガイド部などというようなご提案も併せていただいておりますことを申し添えたいと思います。

あらかじめご意見をいただいておりますのは以上ですが、本日、ご出席の各協議会委員の皆様方からもご自由にご意見いただいきたいと思っておりますので、どうぞこれを言いたいという方はぜひ挙手をしてご発言をいただければと思います。恐縮ですが、指名させていただきます。どうぞ、こちらから松林委員、お願いします。

[松林委員]

鳥取県から参りました、松林と申します。

私は中小企業などの経営支援を行っておりまして、自分自身も80年続く祖父

からの事業承継という形で事業を引き継ぎさせていただきました。当時、全く継ぐ気もなく公務員街道を歩んでいこうと鳥取県庁にいたのですけれども、父が急に脳梗塞で倒れたときに一人娘だったことを思い出して、20代前半で継いだときに、私はとても恵まれていて、近くに倉吉商工会議所があり、鳥取県庁の未来産業創造課倉吉市役所のしごと定住促進課、本当に皆さん広域連合のようにスクラムを組んで支えていただいて、何とか事業を潰さず今も5年目になりますけれども、そういった事業承継の問題について提案させていただきたいなと思います。私は何とかかろうじて周りの支えがあって、何とか事業が継続できたのですけれども、中には嫌々というか、親の家業を私は尊敬して大好きであったのですけれども、商工会議所青年部であるとか、JCですね、青年会議所の方と話していると、本当は継ぎたくなかったけれどもとか、嫌々継げと言われたからという方が本当に多くて、だとすれば、私のように新規事業もやればいいのになと思うのですが、周りの目がということで、なかなかうまくいっていないケースが多く見られます。また反対に、黒字倒産といいますが、はやっていたのに、人気店なのに息子がお医者さんであったりとか公務員で継ぐことができなくて黒字倒産という形でなくなっていったお店も大変たくさん見てまいりました。そこで、あと鳥取県は人口減少が最先端で、地域課題も最先端だと思っているのですけれども、今私たちの地域で何が起きているかというと、商店街ではなくて、もう更地になっていて、私は更地キャンペーンと言っているのですけれども、どんどんどんどん閉店したお店が、当時本当に人気店で継ぐ人がいれば今もやっていたようなお店がもう更地になっているというような現状があります。そこでご提案したい1つは、第三者承継です。私の近所の、私が住んでいる商店街でも事例がございますが、東京や岡山で過ごされてきた方が、全く赤の他人ですけれども関わらせていただいて、継いで何年も今も継続して、定食屋だったのが、カレー屋さんにはなったのですけれども、何とか

続いて頑張って、地域にも溶け込んでいращやるようなところもありまして、そういった取組というものをもう少し充実させていただきたいというところと、先ほど言われました人材育成ですね。全く何も知らなくて継ぐ人も多いので、そういった人材育成も経営者として何が必要か、在り方、考え方というところが学べる機会が少ないかなということと、最後にM&Aが今多くあると思うのですけれども、都市部で結構発展している会社が、地方のところをM&Aして、収入を増やすためにされるM&Aが多いのですけれども、やはりこれからの時代は2代目社長とかが、従業員マインドが抜けなかったりとか、そういう方をM&Aして育てていただいて人を残すM&Aが増えてほしいなというふうに思っています。育ったらさようならというか、頑張れよと言っただけのようなM&Aが私は増えてほしいなと思っています。そういったいろいろな関係団体、行政を含めた事業承継をすることで、地方であったりとか、日本にもっと豊かな、中小零細企業も残っていくのでは、小さな個人商店も残っていけるのではないかと考えております。

以上です。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。ただいま松林委員からは事業承継、特に本来に地域の中で長年事業、商売等々をやってこられた方々の事業承継の問題についてお話をいただきました。広域連合として、こうした事業承継について広域的な観点でできることもあるのではないかとということでお話をいただきました。人材育成や、あるいは他の地域との連携の仕方等々、今後の可能性をぜひご検討いただければというふうに思います。ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。

それでは、加藤先生からお願いします。

[加藤委員]

1つ提案をさせていただきたいと思います。全体として産業経済、企業についてのご発言が少なかったと思いますが、今松林委員の方から地域経済の将来にとって重要なご発言がありました。

私からはこれまでも散々議論されて、ここでも大きな議題になっているのですけども、南海トラフ災害後の広域産業の在り方について、ご提案をさせていただきたいと思います。国、政府も自治体も南海トラフ、首都直下に向けて多くの議論をされているのですが、あえて申し上げれば起こった後の地域経済、どのように復興、特に産業経済的な復興を目指していくのか、提案できるのかということについては、まだまだ議論が十分ではないなと感じています。国難と言われている割には、そこの領域についてはまだまだ議論が足りないのではないかという気がしております。これは産業経済は、松林委員がおっしゃったように、企業の動きと強く関わっていることもあって、なかなか計画サイドからそこに具体的な提案をするのが難しいということも関わっているとは思うのです。ただ、我々は30年前に阪神淡路大震災を経験してまいりました。ここでの教訓からいいますと、その地域が持っていた産業経済の弱点が、ああいう大きな衝撃によって次の展望を持つような産業に変わるのか、あるいは産業自体がなくなってしまうのかという極端な議論があらうかと思います。できれば前者になってほしいわけですが、しかしなかなかそうはいかない。神戸市の方もいらっしゃると思うのですけれども、産業構造の転換が必ずしも十分ではなかったところに、ああいう災害が起きた。産業構造の転換が一気に早まったのかというと、決してそうではなくて、かつてのしがらみから逃れられずに、産業経済の復興も加速していったわけではなかった。そういう意味でも、今南

海トラフが起こる前に、次の南海トラフが起こった後をイメージすることが必要です。広域連合は、経済界、行政との連携の会議であります。ここでそういうイメージをつくっていくというのは、広域連合の重要な役割ではないかという気がしております。この点に関していいますと、この地域の持っている資源の再点検をして、これが大きなダメージを受けたときにどのような連携ができるのかということをしちっと再整理していくということが一つ。

もう一つは、広域連合の中でもおそらく南海トラフが起きたときに大きな被害を受けるところと、そうではない内陸部があるわけですね。そういうところがどういうふうに連動・連携しながら、この地域の産業の頑健性を担保できるのかというような議論も、この内部であれば相当緻密な議論が蓄積できるのではないかという気がしております。さらに最後に申し上げれば、資金を投入すればいいという発想ではなくて、制度、仕組みをつくり変えていくというところにやはり焦点を置きながら議論をしていってはどうか、関西広域連合はあまりお金持ちではなさそうなので、資金を大量に投入していくぞというわけにもなかなかいかないと思います。一方で制度、仕組みをつくり変えていく、あるいは進化させていくことに関しては、知事さん、市長さんの皆さんと一緒に、これはかなり相当しんどいですが、できると思うのです。東日本大震災のときには、その特区というのが前面に出てきて、いろいろ議論はありましたが、やはり大きな役割を果たしたことは事実であります。そういう意味では、そうした制度、仕組みの進化の姿を、特区という名前を使うかどうかは別にして、ポスト南海トラフ災害の産業、地域経済の在り方として議論をしておくということも重要ではないかという気がいたしました。

以上でございます。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。予想される南海トラフ地震につきまして、もちろん直接の災害対策は必要ですが、同時に災後の、言ってみれば事前の復興まちづくり、あるいは事前の復興経済というものを考える、そういう必要性をお話しいただきました。とりわけこれまでの阪神淡路大震災の経験も踏まえると、本当にあらかじめ地域の資源の再点検、そして広域的な対応のとりわけ産業経済に関わる対応の可能性、さらには、それらの災害を踏まえて事前に準備をして、災後に機能をさせるような復興まちづくり、産業復興の仕組みづくり等々、ぜひ検討をということでご意見をいただきました。どうもありがとうございました。

それでは、すみません、武知委員から順番で恐縮ですが、ご発言をお願いできますでしょうか。

〔武知委員〕

ありがとうございます。2回目の発言で恐縮ですが、お話しさせていただきたいことが追加で2点ございまして、お伝えをさせていただければと思います。まず1点目は、私、実は徳島県で環境アドバイザーという役職もさせていただいておりまして、またふだんサーフィンをしていることから、やはり海の環境問題というところは非常に身近にございます。そういった観点から1点お話をさせていただければと思います。皆様、ご存じのように、2050年にはごみの量が海では魚の数を上回るというのは、もう聞いて新しくないような情報かとも思います。こういったごみというのは、海に流れるごみはまちから8割のごみが来るというふうにも言われている、これももう常識になってきているかなと思います。なのでまちの生活されている方、全ての人が、この流れていったごみは海に行きつくということをもって生活をするということが、もう生活の基本になってきているかと思っています。そういった問題を解決するということで、

もちろんごみを、我々もやっているのですけれども、ビーチクリーンをしたり、川の清掃、まちの清掃をすることというのももちろんですけれども、やはり今後はその蛇口を閉めていくところの政策に重きを置くということも非常に大事になってくるかなと思います。その2軸が非常に大事になってくるかなと思います。まさに提言させていただきたいこととしては、広域連合は本当に素晴らしい地域の皆様が横串を刺して連携していただいているので、ぜひまずは子供たちに対して、こちらの毎月のニュースレターでも、今月、9月のニュースレターで、京都府自然体験教室を開催しますというようなご案内もいただきまして、エリアも非常に素晴らしいエリアを子供たちが行き来できるというところで、すごく魅力的な体験を既にやっただいただいていると思いますけれども、やはり山に住んでいても、まちに住んでいても、海に住んでいても、もう必ず同じごみが山から海に行くという流れ、1つのごみを追いかけることはできない、でもそのごみを通る場所というのがどれだけ美しい場所なのか、そこがごみであったり環境汚染によって損なわれてしまうのかということは、子供をはじめ、子供だけではないですね、大人の皆様もご体験できるような機会づくりというのをぜひ広域連合の地域の皆さんで連携していただいて、横断型の体験イベントであったり、そうやって考えられる機会というのを1回とは言わず、何回もできるような形でやっていただきたいと思います。徳島の子たちも、実際にそういうこともよく学んでいて、逆に私たちが学ぶことは多いのですけれども、そういった学習活動というのは本当に未来への種まきになると思いますので、そういった活動を各府県でやっていくということよりは、広域連合が例えばそういう有識者であったり、そういう違うエリアから違うエリアに派遣するような、自分の県府だけではなくて、水でつながっているんだというイメージができるような機会づくりというのをぜひどんどん取り入れていただければというふうに思っております。それで蛇口を閉める政策をと言ったのです

けれども、やはり会議をされて、会議体で今回だと関西広域連合さんが主体でやられているので、手前のところからやっていくというところで、私の成功体験として、徳島県でも幾つか委員会であったり会議に出席させていただいているのですけれども、そこで例えば、こういうふうにお茶を用意していただいて毎回すごくありがたいのですけれども、私は今日、自分で持ってきているボトルで会議に参加するという方も実際にいらっしゃると思いますので、そういった徳島県では事前に飲料は要りますかというようなチェックリストを作ってくださいたりしているので、そういったのは本当に手軽に始められるかなと思いますので、経費も削減できればというところの観点からも、環境保護という観点からも、そのワンチェックだけで達成できるものがあるかなと思うので、それはぜひ何かの形で実現していただければというふうに思っております。

1 個目が長くなったのですけれども、2 点目に関しましては、先ほど佐野委員から関東と関西の女性の就業環境の差というふうにお話を伺ったのですけれども、私も普段、一女性として徳島で生活をしているときに、やはり関西と関東の差で1 つ思うのが、いろいろあるのですけれども、例えば2023年に東京都は卵子凍結の補助金を一番最初にたしか出したと思うのですけれども、実際に関西でも幾つかの市町村であったり、行政さんでやられているところはあるのですけれども、やはり今の女性が求めているライフプランにかかってくる補助、必要な補助というところをもう一度政策に落とし込んでいただく、その中にこの社会的適応の卵子凍結というのも補助というところのニーズとして一つあるんじゃないかなというふうに思っております。なので、まさに佐野委員のようなところでアンケートを採っていただいたものをニーズとして、そういった今女性が社会で自己実現をしていくところでやはり妊娠・出産というところは非常に大事なところになってくるので、そこを両立するというのが当たり前というような社会づくりを、皆さんでやっていくことが当たり前の世の中になるべ

きだなというふうに思っていますので、そこに関しても補助という形で一つ、もちろんそれ以外の形でもちょっと前向きに考えていただければというふうに思っております。

以上、2点になります。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。武知委員から追加をして、特にごみ問題について広域的に現場から学ぶような、そういうことを考えてはどうだろうか、特に子供たちがそれを体験するような、そういう学習はどうだろうか。

それから大きな2つ目としては、やはり女性の問題に関わって、ライフプランとして女性が生きやすい、そういう社会に、特に関西からしていく、やはり広域連合で働きかけをしていく、あるいはいろいろな支援をしていく余地があるのではないかということでご意見をいただきました。どうもありがとうございました。

すみません、いろいろお話を聞いているうちにどんどん時間がたってしまいました。お尻の時間が決まってしまっております。申し訳ありません。

一言だけすみません、お願いいたします。

[植村委員]

時間がないのにすみません。防災から2点、簡単に言いますので、もう少し広域連合として取組を強めるべきではないかという点を提案します。1つは、災害が起こったときのいわゆる災害時の受援力です。ここは実際に私たちが能登の地震のときも、今回の九州の災害があったときにも支援に入ったのですが、受援力があるところとないところというのは、かなり復興というか、そこに大きな差が出ています。受援力が高いところはスムーズにボランティアを受

け入れて、効果的な対応ができるというふうになっているという、その事実を踏まえた上で、もう少し関西広域連合としても、災害時の受援力を高める取組が必要ではないかなというのが1点目です。

2点目は、避難所の生活の改善のところですか。これについては、石破首相がスフィア基準というのを言い出したことを皆さん、ご存じだと思うのです。ですからいわゆる避難者生活を改善しないと、せっかく地震とか災害で助かった命が、災害関連死という形で命をなくすという、そういう残念なことも起こっていますので、できる限り避難所改善ということで、スフィア基準をどう普及していくのかということで取組を進めていただきたいなと思っています。もうご存じだと思いますが、スフィア基準というのは、いわゆる紛争地の難民キャンプを、避難者生活を改善するための国際的な基準です。これを日本では避難所の運営に当てはめるということで、石破首相が言い出したというふうに聞いています。先に言った災害時の受援力もスフィア基準についても、今国が積極的に取組をしているというふうに私は聞き及んでいますので、ぜひ関西広域連合でも取組を強化していただきたいということをお願いして終わります。

[新川副会長]

ありがとうございました。植村委員からは防災に関わって受援力を高めよう、それから避難所の改善、生活改善をせよということでお話をいただきました。関西広域連合として、関西全体で取り組むべきところ、避難所なんかも本当に世界各国に比べると日本の避難所のレベルというのは極めて低いということで、よく問題にされているところでもございます。今後の課題でもありますが、各委員からも可能であれば、この場でいただいたご意見につきましても積極的にご発言をいただければと思います。

では恐縮ですが、協議会委員からのご発言は以上にさせていただきます、

残りの時間、連合委員、各知事、市長様、またあるいは代理の皆様方からコメントをいただいていたと思います。なお、あらかじめいただいていない意見につきましても、可能な範囲で触れていただけるとありがたく存じます。

恐縮ですが、各委員からコメントをいただきたいと思います。順次ご指名をさせていただきます。まずは、西脇京都府知事、観光・文化を主に担当しておられます。いかがでしょうか。

[西脇副広域連合長]

広域観光・文化の分野を担当しております、副広域連合長、京都府知事の西脇でございます。本日は新しく就任された委員もおられますので、ご提案にお答えする前に一言だけ、大阪・関西万博に係る京都の取組を簡潔にご紹介させていただきますと思います。関西パビリオンの京都ゾーンは、6つの分野、食・文化・産業・環境・いのち・観光という分野で、1週間ごとに展示を入れ替えております。ちょっと担当は大変だったのですが、今は観光の分野で、海の京都をテーマに、京都府北部の魅力を発信しております。かなり多くの方に出展、実演、体験についてご協力いただいているということで、先ほどから出ているレガシーという意味においては、このまさに出展する、そのときの枠組みとか、人のネットワークというのが、必ずやこれはレガシーになるというふうに思っております。

それからもう一点、京都府内でも万博期間中に関連のイベントを300以上実施しておりまして、そのうち特に大きなものをレガシーといった観点からご紹介しますと、1つは、「きょうと まるごとお茶の博覧会」というのを、万博期間中を通して実施しておりまして、いよいよ10月11日から13日まで、グランドフィナーレということで、北野大茶会を秀吉さんの茶の湯に由来をしております北野天満宮で実施をさせていただきます。ここも茶人・茶匠、それから茶

の生産者、茶器とか茶道具の職人、それからお茶菓子の職人さんという、多彩な担い手が一堂に会して、こうしたテーマでイベントをするというのは、これまでなかったことで、この枠組みは総合的文化の担い手としての今後の継承に必ずつながると思っています。

それからもう一つは、万博期間中と全く同じ期間、関西文化学術研究都市で「けいはんな万博」を実施しております。実は一昨日は、田中耕一さんとiPS細胞研究所の山中教授という2人のノーベル賞学者をお招きして、贅沢なシンポジウムが行われたのですが、けいはんな学研都市は政府からポスト万博シティに認定されておりますので、まさに万博の成果を実装するレガシーとしての役割を与えられております。たまたま来年4月から次の10年間のステージプランが始まるということで、ここにつきましては、エリアの拡大とか新たなイノベーションも含めて、抜本的にけいはんな学研都市の見直しを行いたいというふうに思っております。レガシーは様々な分野でございますけれども、もう終盤でございます。これからは、今後のことを考えての取組に注力したいと思っております。

本日は、小柳委員からご提案を観光についていただきました。万博を契機に、本当に国内外から多くの方が関西を訪れておられまして、やはり観光の発展というのが、関西経済を牽引する大きな存在だというふうに思っております。特に外国人の方は、府県市の枠組みというのはあまり関係なく周遊されることから、関西の広域観光の推進というのは、関西というブランド力を向上する上でも、また関西各地への経済波及効果を高めるためにも重要な取組だということでございまして、我々広域連合も関西観光本部と連携いたしまして、万博に向けては、広域観光ルートづくりとか、旅行商品の造成の促進とか、情報発信の強化に取り組んできたところでして、例えばその成果でいえば、万博開催に合わせまして、270を超えるような関西各地の旅行商品が新たに造成されました。

また、関西エリア全体への訪問意向率は、2019年のときには32.3%だったものが、2024年には56.3%ということで、かなり増加をしております。これらは府県市の単独の取組ではなかなか難しかったと思っております。広域的な取組の成果だというふうに考えております。また先ほど言いました、関西観光本部は、関西唯一の広域のDMOでございます、これは先ほどからご指摘がありましたように、関西圏のみならず、四国をはじめとする近隣の広域DMO等との連携によるモデルコースの策定とか、情報発信にも取り組んでいるということでございます。広域連合としては、今言いましたような旅行の造成とか、官民連携の枠組みというのは、当然これはレガシーとして活用するという事で、関西経済連合会も広域観光はまさに万博レガシーの一つの大きな柱だというふうに位置づけていただいておりますので、当然枠組みを活かして進めていきたいと思っております。先ほど紹介がありました、関西ツーリズムグランドデザイン2025は、私も参画いたしました、これは関西観光本部がつくったもので、これはどちらかというと万博に向けて盛り上げなきゃいけないというので、そのために官民の力を結集するためにできたグランドデザインですが、今経済界も含めて、ポスト万博、まさにレガシーとして、広域観光をどうしようかというところに重点が移りつつありますので、当然そこに注力するのが必要だと思っております。ご指摘ありました、地方空港の国際便とか観光列車、道路、海路も含めて、これは交通手段がないと広域周遊ができないので必須ですが、実は交通には移動すること自体が観光だという面もございますので、移動の手段というだけじゃなくて、観光の対象としても交通については取り組んでいく必要があると思っております。いずれにいたしましても、万博のレガシーとしての広域観光に、これからも取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、農林水産担当の宮崎和歌山県知事、よろしくお願いいたします。

[宮崎連合委員]

皆様、大変ご苦労さまです。多くの分野で多くの意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

和歌山の知事を今年6月からやっています。宮崎と申します。どうかよろしくお願いいたします。

私は農林水産振興ということで、今回あまり話題になっていない分野ですが、今日は和歌山の市場さんから防災の関係で質問をいただいたので、ちょっと詳しくというか、補足の説明をさせていただきますと、和歌山県では2008年度に県ボランティアセンターと連携しまして、2011年度から東日本大震災からボランティアバスを運行しています。昨年に発生した令和6年能登半島地震では、3月1日から5月28日までの期間において、七尾市に2回、能登町に3回、ボランティアバスの運行をしております。延べ100人が被災地に入りまして、復興・復旧に協力をしてきたということであります。これからも県ボランティアセンターと連携をしまして、ボランティアバスを運行してまいります。

それからカムチャッカの津波警報の件で、確かに熱中症と自動車による避難ということで、大変大きな問題が2つ出てきたなというふうに思っております。熱中症対策につきましては、これはもう本当にとにかくエアコンを入れないといけないということで、市町村に対して、国や県の制度を利用して、空調設備を付けていただきたいということを進めていかないといけないのかなというふ

うに思います。自動車につきましては、やはり結構研究が必要でありまして、とにかく先進地等の対応を見て検討していきたいなというふうに思っています。とにかく避難を諦めることがないように、しっかりと取り組んでまいりたいなと思います。

それから一つ、農林水産振興ではないのですが、事業承継ということで、鳥取の松林さんからお話があったのですけれども、和歌山県、今年に梅の雹被害というのがありまして、梅が梅干しになる前に、梅干しになる前というか、成熟する前に雹で穴が開いちゃうのですね。穴が開いてほとんどというぐらい梅が使えないという話になりました。48億円の被害ということになりまして、大変梅農家が事業を続けられないというようなことが起こっております。梅農家が事業を続けられなくなると、梅干しの業者もしんどくなってくるということで、産地全体がしぼんでしまうという状況になっています。そんなので今いろいろと梅干しの形にってしまうと、やはり値段が安くなってしまうのですが、それをジュレのように練ってしまうと、同じような味が変わらないという、この間広域連合でも試食で食べていただいたと思うのですが、そういうようなことをやっておりますので、ぜひ広域的にまた皆さん方で活用していただいたらありがたいかなというふうに思っております。皆さん方の質問に対する答えにはなっていないのですけれども、これ以上のことを皆さん方にお伝えして、私の説明に代えさせていただきます。ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、広域医療をご担当いただいております、後藤田徳島県知事、よろしくお願いいたします。

〔後藤田広域連合委員〕

ありがとうございます。私、こういう広域の県を越えた会議というのは本当に大好きでして、本当に勉強になる。改めて、今日いただいた全てのご意見を真っ赤になるぐらい今メモを取って、多分担当にこれから落ちていくんだと思うのですけども、ありがたいと思います。本当にありがとうございます。

その前に、皆さんからも関西広域連合の在り方というか、そういったご議論もあったと思うのですけども、やはりそもそも今申し上げたように、この関西広域連合というのは三日月連合長からもあったように、日本で唯一の県をまたがった広域行政なのですね。今我々、私ども徳島県は医療担当で、例えば日頃の実践としては、ドクターヘリをお互いに運用していくとか、その契約の会社と今そこがちょっといろいろと問題を起こして、その調整をやったり、こんな細かいこともやりながらですけれども、お互いまずやはりいいところを学び合う。そして、先ほどのお話もあったように、若い人たちがいろいろと交流して、武知委員もおっしゃったように交流することによって、「徳島にないじゃないの」とか、アリーナとかがどんどん今建って、言われるのですよね、我々知事って。「何であそこの県にあってうちにはないの」とか、京都とか滋賀はあるかもしれない、和歌山さん、どうですかね。この前も「高松にアリーナがある」といって、高知・徳島・愛媛の知事は責められるのですよ、「うちはないのか」とかといって。だけど今もうアリーナバブルになっているのですけど。少し話が飛んでしましまして、すみません。要は何が言いたいかというと、やはり緊張感を持って、うちにはないじゃないかと、ちゃんとやれという、こういう緊張感。実は私も国会議員を22年やっていて、EUと日本の議員の議員連盟の幹事長をやっていて、毎年ブリュッセルとストラスブールに行っていて、要はEUというのはまさにその監視機能なのですね、国同士の。要は我が国にないじゃないかとか、EUという組織が非常に力を持っていて、フォン・デア・ラ

イエンさんをはじめ、世界、NATOもそうですけども、そういうのも参加して、要はやっていない国に対して「やれ」と言うのですよ。こういう機能がまさに今日お集まりの皆さんだと思います。シェンゲン協定というのがあって、EU域内では移動が自由なのです。だから、自由に移動することによってすばらしい国があれば、そこに住んじゃうという、だから我々も知事たちは、自由に子供が行ったりして、もう徳島は何もやっていないからもう滋賀に引っ越すと、こういうふうにならないようにお互いに緊張感を持ってやるという意味で、こういう広域というのはある。

改めて議題に戻しますが、僕の担当として石嶋委員から非常に現実的なお話をいただきました。2018年からチャージングケアを設立されて、僕は本当にすばらしいと思います。うちもちょうど時宜を得てすごいタイミングだなと思ったのですが、私どもは先般の議会でも私から言いましたけれども、今日本ってがんの検診率が4割台なのですね。韓国というのはもう7割弱ぐらいあって、韓国は保険者が一つに統一されて、しかも罰金まであるのです。私も半年前に福岡資麿大臣のところにも行って、「がん検診を早く義務化しろ」と言った。もっと言うと保険者、国保と協会けんぽと組合健保、あの人たちが本当はしっかりやらなきゃいけないんだけど、全然やらない。だから今県としてもがん検診を4割台から7割に上げると、韓国と日本っていわゆる死亡率も生存率もあまり変わらないのですよ、検診をしていないのに。韓国は7割が検診した途端に死亡率が6割下がった。だからもう本当に早期発見・早期治療というのは当たり前のことなんですけど、日本というのは大腸が嫌だとか、胃カメラを飲むのが嫌だとか、皆が訳分らない理由で、それでがんになっちゃって、それで医療費がどんどん高くなって、家族も大変になる。だからこれをちゃんとやろうよといって、私は県民の皆様に強烈に訴えかけて、「徳島県がん征圧共同宣言」をまず出して、がんを無視するなよというキャラクターを作って、子供た

ちから大人に、子供たちからおじいちゃん・おばあちゃん・お父さん・お母さんという、こういうのも今まさにやっています。あと中川恵一先生が先週、徳島に来てご講演されたり、あと私も身内が本当はがんの関係で他界したり、そういうこともあるし、たまたま私の実の兄は今有明のがんセンターの消化器の責任者をやっている。そこから日本は何をやっているんだと、検診しない国で5分の1の人ががんで死んじゃうのに何を日本はやっているんだと、本当に今も総裁選のテーマにしてももらいたいぐらいだけれども。すみません、また前段が長くなってしまいました。改めてアピアランスケア、まさに見かけですよ、こういった外見ケアにつきまして、これはもう絶対におっしゃるとおり、欠かせないと思います。石嶋委員がおっしゃった、いろいろな比較において我々ができていないという、こういうご指摘も大変重く受け止めたいと思いますし、近日中に100%にしたいと、このことを申し上げます。そうするとほかの県もやらなきゃいけなくなっちゃいますよね。こういうのが効果的なのですよ。鳥取県さんなんかも、直接補助をしていらっしゃったり、やはりいろいろな優良事例についてまたぜひご指導いただきたいし、それを共有してすぐ実行に移して、あと京都府さんも鳥取県さんでも復学ケア、これもすばらしい小児慢性特定疾病児童等自立支援事業というのですかね、こういう学習支援もされていると聞いています。これもすぐに真似します。それとあと学習支援、今の話だけじゃなくて、うちの県も実は県立病院と徳大病院で院内学級を設置して、病気の治療中でも安心して学び続ける、こういうのに取り組んでおりますが、まだまだできていない部分があります。これはしっかりやります。加えて、復学支援、これにつきましても、心のケアという話もそうだし、学習ということもそうですけど、うちらも分身ロボット「オリヒメ」、これを活用していろいろやらせてはいただいておりますが、とにかくそこら辺は徹底的にやっていきたいと思うし、あと、メタバースの活用による、さっきの「オリヒメ」も含め

てですけれども、復学支援、こういったこともやってまいりたいと思います。

とにかくがん関係は今相当力を入れてやっていますので、今日いただいたアピ
アランスケアも含めたがん対策が、日本で一番進んでいると言われるようにし
っかり頑張りたいと、このように思います。

あと最後に、若干時間もあるようなので、事業承継についても、本当にすば
らしい指摘だと思っています。ああいう方がいっぱいいたら全然変わるのにな
と、でも、やはり地方では少ないですか。

[松林委員]

はい、少ないんですよね。

[後藤田広域連合委員]

そこなんですよ。だから僕 J C とか商工会議所とかに言っていますけど、
「もう仲間意識で酒を飲んでいる場合じゃないぞ」といって、やはり「県外と
か世界とかに行け」と言っています。本当にそういうところも含めて、うちも
M & A 推進とか、事業承継とか、まさに第三者承継とか、僕も平気で言ってい
るんですよ。だから最低賃金も私は去年にぐっと上げて、今年も上げて、それ
は滋賀県さん、京都府さんが高いから、もう追いつかないと取られてしまうん
ですよ、京都とか滋賀とか兵庫県とかに。だからそれによって改めて生産性を
高めなきゃいけない。知恵を使わなきゃいけないというふうに皆がなった。お
かげさまで最賃が全国で一番上がったんだけど、業務改善助成金の申請件数が
3 倍になって日本一になったんですよ。それぐらい皆、私からするとあまり危
機感がなかった。だからやっとなんかそうやって、僕は本当にまた怒られるのだけど
言うんですよ、もう後継者が今 6 割いないんですよ、地方って多分、鳥取もそ
うだと思う、平均。「後継者がいなくて世界とか県外を攻めないんだったら今

すぐやめて、会社を売りなはれ」と言っているんですよ。その方がだって一番得でしょう、合理的でしょう。5人の会社が10社あったら、50人の会社を1社つくったほうがよっぽど生産性が高いし、若い子たちも出産で休めるし、病児保育でも休めるし、「当たり前のことを早くやってよ」と言って、「今そのためにやってよ」と言っても駄目だから、だからそうやって最賃を上げたり、そうやって外堀を埋めていっているわけですよ。別にそれでいい会社をつくって、いい人がきたらいいよねという、こんなことで本当におっしゃるように、うちも人気店から更地、駐車場、皆そういうパターンですよ。だから、そこはもう本当にしっかり頑張りたいというふうに思います。何かそういう若者の意識の高い人ってそんな多くないから、そういう交流も一緒にやれたらいいなと改めて思いましたので、本当にお願ひします。うちもストライクというM&Aの上場企業の社長が来て、この前もイベントをやったり、もうガンガンM&Aをやっています。M&Aというと田舎の地方の会社はすごくびびるんですよ、乗っ取られるみたいな。だけど行政が入ると、結構安心するということもあって、今それを金融機関と一緒にやっています。日本M&Aセンターと地銀と、例えばストライクさんとかと。これもまたちょっと見ておいていただいて、いいものがあれば共有したいし、また今日も和歌山県さんも滋賀県さんも京都さんのすごく最先端のものはすぐ学びたいと思っていますので、こういうのが広域連合だと、こういうことでございますので、本当にありがとうございます。ちょっと長くなりました。

[新川副会長]

ありがとうございます。いろいろご示唆をいただきました。

続きまして、産業万博担当、渡邊大阪府副知事、よろしくお願いいたします。

[渡邊広域連合副委員]

大阪府の渡邊です。

大阪府では、大阪市と堺市と一緒に広域産業のほうを担当しておりますので、今の松林委員からお話のありました、事業承継の話を簡単にお答えさせていただきます。産業振興において、事業承継は非常に重要な課題だと思います。実際には個々の事業者の支援については商工会議所ですとか、都道府県で事業承継センターなどをつくっているところがあると思いますので、そういった形で取り組んでいるところです。広域連合として何をやるかという話ですけども、広域連合でもホームページの中で、各構成府県市の施策が一覧できるようにしています。また、情報紙の中で人材育成とか、そういう事例を取り上げたりしております。今後藤田知事のお話にもありましたように、たくさん皆さん困っているところがありまして、やはりいろいろな事業、第三者承継などを前提にしますと、どんな人を探してくるのかなどが大変難しいところだと思いますけれども、これは競争なので、できるだけいいことをやっているところを我々も広報とか、域内で紹介して、ほかの団体が真似られるようにし、域内の政策の水準が上がっていけるような紹介ができるよう取り組んでいきたいと思っています。

あともう一点、これは直接ではないのですが、佐野委員からお話がありました、女性・若者に選ばれる関西を目指してという部分について、全体としての取組につきましては、この後また別途お話をいただきたいと思いますけれども、産業面のほうからの取組について発言をさせていただきたいと思っています。大阪府としての取組の話になりますが、働く人、それから企業、経営者のお話と両面からあると思いますけれども、働く人向けには、OSAKAしごとフィールドという就業支援拠点を持っておりまして、そこでキャリアカウンセリングとかマッチングなどを行っています。この中で女性のための相談会ですとか、女性の採用に積極的な、企業の説明会などを開催しております。また、「ふぁみタス」

という子育て仕事応援ルームというものを設置しており、ここでは、就活と保活、両方をワンストップで支援できることを強みとしており、女性だけでなく男性もターゲットにして、子育て中の方の就業活動・就職活動と仕事と家庭、子育てが両立できるような形のサポートを行っているというところです。あともう一点、経営層について、経営者の意識改革ですとか、これが一番大事ですけども、中小企業人材センターや労働相談センターを置いておりますので、この中で経営者向け、あるいは人事担当者向けにダイバーシティの先進企業の事例を紹介する講演会やセミナー、人材研修など、経営者向けの研修なども実施をしまして、企業の実践を促しているところです。広域連合としましては、「関西広域産業ビジョン」を策定しており、その中で「産業を支える多様な人材が活躍する関西」という形で、目指す将来像の中に掲げております。ご指摘がありましたように、人材については企業としても関東と大分差があるという話がありまして、企業としても、また関西という地域全体としても大きな問題だと思いますので、しっかりと各構成府県市ともビジョンを共有してそれぞれ取り組んでいこうという形にしており、経済界やいろいろな機関ともこのビジョンを共有しております。関西全体でビジョンに掲げた将来像の実現を目指して取組を進めていきたいと思っています。

以上です。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、職員研修、あるいは行革等をご担当いただいております、奈良県から福谷奈良県副知事、よろしくお願いいたします。

[福谷広域連合副委員]

ありがとうございます。皆さん、本日は大変ご苦労さまでございます。

私からは正阿彌委員からご意見をいただきました、広域的な視点と行動力を持つ人材の育成をということで、本県研修のほうを担当しておりますので、意見を述べさせていただきたいと思います。ご承知のように関西広域連合では、幅広い視野を持った職員の養成、また、構成府県市間の職員のネットワークの構築を主な目的といたしまして、広域職員研修局において研修を実施しております。昨年度は構成府県市の30代の職員を対象に、持続可能な社会の実現をテーマといたしまして、徳島県でお世話になりました上勝町での地域住民によるリサイクルの取組など、フィールドワークとして学ぶ2泊3日の合同研修などを実施いたしました。また今年度は、地域振興、観光振興をテーマとして、構成府県市の職員が本県、奈良県明日香村におきまして、民家ステイ体験や地域住民との交流を通じまして、課題解決に向けた議論を行う合宿研修を予定しているところです。これまでに研修に参加した職員の皆さんからは、地域の実情を実際に見て触れることで、現地のリアルな声や雰囲気を感じられ、とても勉強になったというふうな声が多数寄せられております。ご意見もいただいたような形の中で対応がやっつけているのかなというふうなことも思っております。いずれにしても、引き続き幅広い視野を持った職員の養成等を狙いとして、取組を進めていきたいというふうに思っております。

それともう一点、PRも含めて言わせていただきたいと思います。小柳委員、並びに友松委員からの大阪・関西万博のレガシー、観光と広域ツーリズムということでご意見をいただきました。ご承知のように奈良県には奈良公園があります。おそらく万博に来られた海外、インバウンドの方が早朝よりたくさん奈良公園のほうに、県庁も奈良公園のすぐ前にありますのでよく分かるのですが、たくさん来ていただいています。大体8時半ぐらいにはたくさんの外国の方が来られています。鹿さんも大変喜んで、鹿せんべいを頂いているよう

でございます、おかげさまで、鹿も昨年度は1,300頭ぐらいだったのが、今年の調査では1,400頭ぐらいに増えていると。それは餌を頂いたからかどうかは分かりませんが、そういうふうな状況で、非常にありがたいというふうに思っております。また来年、令和8年夏頃の世界遺産登録を飛鳥・藤原の宮都ということで目指して今現在頑張っているところでございます。また、これもご承知いただいておりますが、来年放送、大河ドラマ「豊臣兄弟！」が放映されることに決まりました。仲野太賀さんが主演というふうに聞いております。これもご承知のように、主人公である豊臣秀長の居城であった、郡山城など本県が有する資源を活用した県内周遊施策を進めていくということも前提ですけれども、秀長の兄である秀吉の居城でありました、滋賀県の長浜城、大阪城、また関西に点在するゆかりの地を巡る周遊ツアーの企画などによりまして、本県のみならず、関西圏での魅力発見と観光誘客の促進を図りたいというふうに考えております。加えまして、奈良県は3つの世界遺産を有しております。その中で紀伊山地の霊場と参詣道エリアが観光庁の地方における高付加価値なインバウンド観光づくりのモデル観光地に選定をされておまして、共通的な観光資源を有する本県と和歌山県、三重県、もとより関西空港を起点とした関西全域の周遊を促していきたいということも考えております。

2点目は多少のPRも含めての意見とさせていただきます。ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。大変申し訳ありません、うかうかしておりましたら、どんどん時間が過ぎてしまいました。各委員には大変恐縮ですが、スピードアップをしてコメントをいただければというふうに思います。

それでは恐縮ですが、観光・文化ご担当、竹内京都市副市長様、よろしくお

願いいいたします。

[竹内広域連合副委員]

広域観光・文化の担当をしておりますが、先ほど西脇副連合長から広域観光の取組についてお話があり、また、福谷副委員からも奈良県を中心とした広域観光の価値についてお話がございました。京都市もその一員として、関西の観光の発展に貢献したいと思いますし、また関西全体で盛り上がっていくという視点が非常に大事だと思います。しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

それ以外のところでお話をさせていただきます。一つが、先ほど正阿彌委員、あるいは青木委員からお話をいただきました、若者の参画推進でございます。今回の協議会で、京都市から京都学生広報部に所属されている、龍谷大学の1回生の大神さんに新しく委員にご就任いただいています。この京都学生広報部というのは、京都で学ぶ大学生が学生生活を送る中で実感するリアルな京都の魅力を学生目線で全国の中高生に発信するという活動をしていただいています。京都学生広報部の皆さんにも、ぜひ、どうやって関西の魅力あるPRをするのかということもご検討いただきたいと思いますし、若い方の声を関西広域連合でもしっかりと施策に反映していくように、京都市としても取り組んでいきたいと考えております。昔の古代遺跡の碑文を読み解いたところ、碑文の最初には「近頃の若い者は」と書いてあったというようなお話がありますが、これは今も昔も若い方というのは新しい視点、あるいは価値観、感受性を持っているということだと思います。私も若い頃はそうだったかもしれません。こうした価値観というのを大事にしていきたいと考えています。

それからもう一つが、今日ご欠席の池添委員から住宅安全教育についてご意見がございましたので、京都市の取組をご紹介します。京都市では、能登半島地震を受けて、耐震や防火についての展示をし、そこに小学校の

校外学習で小学生の方に来ていただいて、実際にいろいろな防災についての意識を高めていただくという取組をしています。この取組を、NHKの京都のローカルニュースで取り上げていただき、参加した小学生が防火や耐震について、家に帰って話したいとインタビューで答えられており、企画した側からするともう100点満点以上の回答、コメントをいただいたということがございました。子どもへの防災教育は、実は子どもを通じて家庭で話題になる、親に周知することに繋がり、市が直接言うよりも、もしかしたら子どもを通じたほうが効果があるかもしれないというふうに思った次第です。

それから、もう一点、京都市で能登半島地震を受けて、耐震や防火改修の支援メニューを拡充しましたが、1年目に起こったことは、改修そのもののメニューではなく、自分の家に耐震性があるかどうか分からないという方が多くて、耐震診断の支援件数が増え、その1年後に改修の件数が増える、こうしたことがございました。これはご参考に共有させていただきます。

以上でございます。ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。いろいろご配慮いただきまして恐縮です。

それでは続きまして産業、そして万博ご担当の山本大阪市副市長様、よろしくお願いいたします。

[山本広域連合副委員]

私からは、大阪市の取組についてご紹介させていただきます。先ほどの松林委員さんの中小企業の事業承継の件でございますが、私も実は親が商売をしており、結局私は公務員になりましたので、潰してしまったという方で、本当に身近に感じた次第でございます。特に大阪は中小企業のまちでございますので、

非常に大切な課題であり、市としても以前から力を入れてきております。大阪産業創造館をかなり前に立ち上げ、この拠点で経営相談、セミナー、あるいは専門家の紹介や、情報提供などのサポートをいろいろ行っております。その産業創造館につきまして、女性活躍のお話がありましたので、少しご紹介させていただきます。今年の5月に、産業創造館において「女性の活躍推進」をテーマとした展示商談会を開催いたしました。初めて取り上げるテーマながら、国内外から約400名の方々にご参加をいただきました。現在の女性が直面する様々な課題を解決するためのサービスの体験や、グローバルなネットワークづくりなど、産業分野で活躍する女性の裾野拡大につながる取組を行っております。

簡単でございますけども、以上でございます。ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、産業分野副担当、佐小堺市副市長様、よろしくお願いいたします。

[佐小広域連合副委員]

私から、小柳委員からもございましたが、万博閉幕後のさらなるインバウンド誘致など、レガシーについてご意見を頂戴しましたので、その関連で申し上げたいと思います。堺市としましても、大阪・関西万博閉幕後に関西への観光需要を減退させず、一層観光客を呼び込むことは非常に重要であり、今年は万博という大きな点に来られた方々を閉幕後は、関西全体のこの大きな面で受け入れ、各地域の魅力に触れてもらうことは、大変効果的であると考えております。堺市では、実はこの10月4日でございますが、万博会場に一番近い世界遺

産でございます、百舌鳥古墳群を上空100メートルから眺望できるガス気球の運行が開始となる予定でございます。また、本市を含む大阪南部の泉州地域、13市町の広域で構成する観光のDMOでございます、「K I X泉州ツーリズムビューロー」において、泉州の食を誘客テーマの一つとして、万博会場でも泉州グルメサーカスと題した泉州グルメの紹介を行ったところでございます。実は今期から、この「K I X泉州ツーリズムビューロー」専務理事の柊元様にも協議会の委員としてご就任いただいておりますので、今後よろしくお願い申し上げます。関西の世界遺産や食をテーマにした周遊など、関西を面で捉えた取組により、引き続き多くの観光客を本当に関西に来てもらえるよう、関係者の皆様と連携しながら大いに盛り上げていきたいと考えております。

以上でございます。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、今日はたくさん議論も出ましたが、防災担当の池田兵庫県防災監、よろしくお願いいたします。

[池田広域防災局長]

兵庫県防災監広域防災局長の池田でございます。

防災に関するご意見がございましたので、神戸市の小松副市長もご参加されておりますが、私から先にスポーツと、それから防災についてコメントをさせていただきます。まずスポーツについては、高木委員から連合協議会の持ち方についてということでございました。協議会が分野ごとに開催されれば、生涯スポーツやスポーツツーリズムなどをはじめとして、様々な事業を個別にPRできる機会になるのではないかというふうに考えておりますが、一方で、会議

体の持ち方は別として、実際に各地域で多彩な分野で活動されている委員の方々からは、それぞれの分野に特化したご意見をいただけるものと考えておりまして、課題を掘り下げたり、専門的な意見を汲み取って対応できるように、構成府県市とも連携してより実効性のある取組を進めていきたいというふうに考えております。

次に、武知委員からありました、誰もがスポーツを続けられる社会についてということでございますが、まずホームページの更新については、本県が主担当として更新するようにしておりますが、更新できていないという状況がございますので、各構成府県市が、それぞれの取組の情報発信ができるように、現在調整を実施しておるところでございまして、今後も引き続き情報発信の強化に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

次に、女性のスポーツ実施率ということで、ご意見がございました。実際にスポーツ庁の令和6年度の世論調査では、週1回1日以上スポーツを実施したいという希望率は66.6%に対して、実施が52.5%ということで、約10%以上の乖離があるという状況でございます。特に20代から40代の女性でその乖離が大きい状況であるというふうに認識をしているところでございます。一方で、これから行ってみたいスポーツは何ですかというところについては、男女ともにウォーキングが高いということで、特に男性に比して女性のほうがウォーキングニーズが高いという結果が出ているところであります。また、現在スポーツは実施していないけれども、6か月以内にスポーツを始めようと思っているというふうに回答された方々の中でも、ウォーキングが非常に高い率での回答ということでありまして、関西広域連合スポーツ部としましては、ワールドマスターズゲームズもございますので、この実施競技場を巡る12のコースを設定しまして、歩けばその分ポイントが稼げるということで、商品も獲得できる、「関西元気ウォーク」というものを令和2年度から実施をしているところでござ

ざいます。今年度はこれまでに8,500名を超える方々に参加をいただいているという状況でございます。引き続き、このようなニーズの高いウォーキングを通じて、運動習慣の促進を図っていきたいということで考えております。一方で、仕事の忙しさを理由にスポーツを諦めるという課題については、実際に企業においてスポーツの取組をしていただいているところと、そうでないところというところで大きな差が出ているという状況でございます。関西広域連合としましては、経済団体と連携して、スポーツに積極的な企業やスポーツを通じて健康経営に積極的に取り組んでいただいている企業を表彰する制度に取り組んで実施をしているところでございます。引き続き、誰もがスポーツを続けられる環境づくりに取り組んでいきたいというふうに考えております。

次に防災に関してですが、市場委員から防災ボランティアの支援ということで、宮崎和歌山県知事からもございましたが、能登半島地震において各構成団体においてバスの運行や交通費の支援など、取組をしているところでございます。委員ご指摘のとおり、被災地までの移動手段の確保というのは非常に重要な問題でございます。関西広域連合としましても、2府8県のバス協会や近畿のライオンズクラブや青年会議所などとも協定を締結し、ボランティアの輸送や資機材の提供について要請をするということで、協定を結んでいるところでございまして、これらを有効に活用し、今後とも災害ボランティアの支援に取り組んでいきたいというふうに考えております。

同じく市場委員から、今後の津波避難の話がございました。これも和歌山県知事からもございましたが、実際に対応した後に各構成団体の意見を採りましたところ、アンケートでも同じような意見ということで、特に交通渋滞、あるいは避難駐車場の確保、避難者の熱中症のリスクといったような意見がございました。これらについては、この結果を構成団体内でも共有をしたいというふうに考えておりますし、（各構成団体が）現在南海トラフの被害想定の見直し

や、防災計画の見直しに取り組んでいるところでございます。今回の対応については、国についても検証して必要な対応を検討するとしておりますので、これらを踏まえながら関西防災・減災プランの見直しにも反映をしていきたい。またさらに、国にも必要な提案等も実施をしていきたいというふうに考えております。

次に、青木委員から帰宅困難者対策ということでございました。関西広域連合では、令和元年に対策ガイドラインを策定しまして、一斉帰宅の抑制など、各段階における取組として、関西広域連合構成団体、そして民間企業等々、官民が連携して総合的に対策に取り組むようにしております。このため、構成府県市とも連携した訓練を実施するほか、コンビニなど、帰宅者の支援をしていただく事業所と協定を結びまして、それをウェブ上で展開をする「帰宅困難者 N A V I」なども運用をしているところでございます。また、関西経済連合会とも協議する場を設けておりまして、これらの中で問題認識を共有するとともに、経済団体でのセミナーでの講演等を通じて、帰宅困難者対策の周知など、経済界とも連携して取り組んでおります。ご指摘のとおり、今回の万博で事案が発生しましたので、駅などでの周知活動を強化していきたいというふうに考えております。引き続き、官民連携をして構成団体とともに、幅広い広報に努めてまいりたいというふうに考えております。

それから、加藤委員からありました、南海トラフ後の広域産業の在り方という部分についてですが、こちらは防災としましては、災害が起きた後、あるいはその前ということで、関西経済連合会とタスクフォースということで協議体を持っておりまして、やはり問題認識については災害をいかに局限するか、災害対応をどうするかというところが焦点ではございますが、各企業での B C P の整備ということで、サプライチェーンや物流を含めた体制の強化、そして企業側からの地域防災への協力というようなところの議論をさせていただいてい

るということで、現状をお伝えさせていただきたいというふうに思います。

また、植村委員からは受援力の強化ということと、スフィア基準による避難所の改善ということでご意見がございました。受援については関西広域連合内で南海トラフの応援・受援体制を構築しておりますけれども、さらにその下のレベルといいますか、各分野における応援・受援体制の強化についても、今後しっかりと拡充をしていきたいというふうに考えております。また、避難所の改善につきましては、能登半島地震で問題点として挙がりました。この点については、いわゆるTKBと言われる部分について、昨年度の関西防災・減災プランの見直しというところに反映をしておりますし、今後各団体がトイレカーやキッチンカーなどの導入を図っておりますので、これらの総合支援の体制についても、今後構築をして、関西全体としての避難者支援体制の充実強化を図っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。

それでは同じく、防災分野に関わりますが、小松神戸市副市長、よろしくお願いいいたします。

[小松広域連合副委員]

神戸市の小松です。

帰宅困難者対策ということで、青木利博委員の質問に対して、取組をご紹介します。神戸市におきましては、帰宅困難者が発生しました場合は、一般的には市の職員とか警備会社の誘導によって、大規模な東遊園地とか、そういったところに一時退避場所に一旦移動していただいて、現地で一時滞在

施設へご案内するような方法を採用してございました。これは非常にアナログですので、新たに昨年の４月からウェブ上で、スマホで公共交通機関のデジタルサイネージ等で２次元コードを表示させていただいて、それを読み取って、一時滞在施設へそれぞれ案内する「帰宅困難者支援システム」というシステムを開発しまして、今誘導の運用開始をやっているところでございます。この普及啓発としまして、毎年協力事業者と連携しながら市民参加型の訓練を行っているほか、大型サイネージで広報動画の放映やイベントや訓練での広報チラシの配布など、市民にＰＲをしているところです。今後もこういった取組をイベントや訓練を通じて積極的に広報してまいりたいと考えてございます。

以上です。

[新川副会長]

ありがとうございました。

先ほど急遽ですが、平井鳥取県知事にご出席をいただきました。ここまでのご議論、十分には聞いていただけていないかもしれませんが、一言、せっかくの機会でございますので、コメントをいただければと思います。平井知事、よろしく願いいたします。

[平井広域連合委員]

本日は第８期の協議会の委員の皆様、このような機会をいただきまして本当にありがとうございました。また秋山会長、新川副会長、引き続きご選任ということでございまして、よろしく願いを申し上げたいと思います。

こうやって見渡してみますと、最初からこれに出ているのは、秋山会長と新川さんと私ぐらいになるかもしれませんが、すっかり古狸になりまして、一番遅くやってきて誠に恐縮ですが、若干皆様で今日ご議論があったことに関係し

てコメントをさせていただきたいと思います。

松林さんの方からお話がありました、事業承継や中小企業対策はこれからの課題だと思いますし、せっかく万博もありまして、元気が出かけたところでございますから、これをどうやって繋げていくかということだと思いますが、私は鳥取県というところから来ましたけれども、越境して、それで事業承継を集めるようなことも始めています。それで岡山から実際に倉吉市内のお店を引き継ぐというような事例も出たりしておりますが、確かにまだまだ足りないと思います。関西の皆様もいろいろなフィールドで仕事をしたいという多分若い方、いらっしゃるんじゃないかと思うんですね。たくさんお金もうけをしなくても、自分らしく生きていければいいというライフスタイル、それは今のZ世代の方などはそうではないかなと思っています。全員ではなくても、ほんの僅かな方々がそういうことをする、そのまちができるだけで日本全国が元気になる可能性がありますし、またそれぞれの人生の彩りも変わってくるかと思います。そういう意味で松林委員のように若い方々を養成されている、そういう方もいらっしゃいますが、いろいろな方々と連帯をしながら進めていければありがたいなというふうに私も思いました。

そして今日、万博のレガシーの話がたくさん出されたところでございますけれども、これもアフター万博に向けて、ぜひつなげていければというふうに思うわけでございます。「砂丘とは浮かべるものにあらずして踏めば鳴るかな寂しき音に」という与謝野晶子さん、こちらは大阪の方の歌があります。そんな砂丘をテーマにして鳥取県も関西パビリオンの中で、森館長のもと、我々も一角を使わせていただいておりますが、おかげさまで結構来場者の方々に名前が売れたかと思います。結構行列もできまして、こういうのをお砂お砂というのですけれども、そんなわけで、たくさんの方に来ていただけたなということで、感謝の気持ちを込めまして、サンキューということ、そして我々の砂に引っか

けまして、「砂丘（サンキュー）！砂要る（スマイル）？」キャンペーンというのを実は土曜日から始めております。砂を持ち帰ってもいいというふうにしたのですね。ただちょっとおっかないものですから、1万人限定としていてよかったのですが、結構関西のお客さんが多いみたいで、ただであげると言ったら、袋いっぱい入れて、たちまち砂丘がなくなってしまうそうになりまして、今慌てているということではありますが、そんなようなことでレガシーというのはこういうことでできてるのかなと思います。実はこれは仕掛けがありまして、それを皆様のお手元で砂を置いて思い出してくださいと、甲子園の土のように持って帰ってくださいということで、キャッチフレーズなのですが、それをすればするほど私たちでは砂を産業廃棄物として処分するお金が減るわけでございます。ですからWin-Winの関係なのですよね。これだったらいいかなと思って、ヨルダン館という仲よくなったところにワディ・ラムの赤い砂、これも処分すると結構なお金がかかるはずでありますから、全部鳥取に持って行って使ってあげますよと言ったら全部くれるという話になりまして、これは今度観光資源になるわけです。そこに行ってみたいという方ができてるかもしれない。だから知恵を使っていけば、結構アフター万博もそこそこいろいろな方の注目を集めることができるかなと思っております。私ども関西広域連合で地域の力を寄せ合いまして、この万博を挙行中でございますけれども、もう一月もすれば終わってしまうことになります。でもこれは新たなスタートだと思いますので、協議会の皆様のさらなるお知恵・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

[新川副会長]

どうもありがとうございました。急遽のご参加にもかかわらず、ありがとうございました。

それでは最後に、三日月広域連合長にお願いをしたいと思います。たくさんお話しになりたいことがあると思いますが、よろしく願いいたします。

[三日月広域連合長]

ありがとうございます。ご参加いただいて、またたくさんのご意見をいただきました。また、せっかく来ていただいたのに、こういう意見が出るのだったら、私も一言言いたいという方があったと思いますので、ぜひ次回に向けて、またご意見をいただければと思いますし、前回ご参加いただいた方から、聞きながら思ったことを書いて共有できるようなシステムを、この会議の間回したらどう、「S l i d o」なんかはそういうことができるそうですねとか、あと、あの方と意見交換をしたい、名刺交換をしたいという茶話会のようなものとセットで協議会があるといいなというようなことも聞いていましたので、次回に向けて課題、また検討させていただきたいなと思います。ただ、こんなに時間を超えて、多くのご意見なり意見交換ができた協議会というのは、私は久しぶりだったと思ひまして、とても充実していました。さっき後藤田さんもおっしゃっていましたが、たくさんのメモをしながら、これは入れないと、これはいいご意見だな、ご提言だなということで私もたくさんインプットしましたので、ぜひ今後活かしていきたいと思ひますし、事務局も皆で聞きましたので、また施策に活かしていきたいと思ひます。

私が所掌している観点で、安井さんからベアドッグのことをいただきました。長野県でされているそうですね。ぜひ関西広域連合としても勉強をして、どういふことができるのか考えたいと思ひます。兵庫県に森林動物研究センターがあつて、いろいろな知見もあるようですので、そういったことも生かしながらかぜひ考えていって、何か人間の都合だけで出てきたから、襲われたから殺すというだけじゃない熊対策も考えていけたらいいなというふうに思っております。また、武知さんから追加で環境アドバイザーのご経験で、海ごみのこととかマ

イボトルのこととか、もし皆さんがいいとおっしゃっていただくならば、もう既に持ってきていただいている方もいらっしゃると思いますが、次回からマイボトルで、持ってきていない方、もしくはご希望される方にはお配りするという事で、会議の持ち方も早速改善なんかができたらいいなと思いますので、ご協力をいただければと思います。

また、高木さんと、今日のご欠席の西村さんから、この協議会全体会議もいいけど、テーマ別分科会なんかを設けるといいんじゃないかという、こういったご提言もいただきましたので、これはまた秋山会長や新川副会長ともご相談の上、またテーマを設けてご議論いただけるような場の設定も考えたいなと思いました。

また、辻村さん、正阿彌さん、若者代表の青木正繁さんから大学生等との意見交換、また広域的な視点、行動力を持つ人材の育成、さらには連携だけではなくて総合的なガバナンスが発揮できるような広域連合にという、こういった視点でのご意見をいただいて、ミライカンサイサクセンカイギ、幾つかご紹介をいただいて、これはとてもいい機会だったなと思っておりますので、そういう場なんかもつくりながら、広域の視点で皆で意見交換しながら、この関西の在り方を一緒に考えていけるような場、そしてネットワーク、さらには意見交換の場をつくっていただけたらいいなと思いました。

最後になりますけれども、佐野さんをはじめ、武知さんからも、このアンコンシャスバイアスのことですね、これをいただいて、今日京都学生広報部の大神さんが聞きながら、この関西に就職したいと思ったかどうか、こういうところが何か魅力的に思ったかどうかをまたぜひ次回に聞いてみたいなと思ったのですが、ぜひ佐野さんの財団で採っていらっしゃるヒアリングとかアンケート、データを共有させていただいて、そしていろいろな研修、我々もやっているつもりですけど、まだまだちょっと古かったり、知らないうちに何か固定的

な役割分担、性別のこういうものに縛られているようなことを顧みたいと思いますので、そんな企画なんかもまたつくりたいと思いますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

こんなにたくさんのご意見をいただいたことに改めて感謝を申し上げ、これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

[新川副会長]

ありがとうございました。三日月連合長にはいろいろとご配慮いただきまして、また各委員にもご丁寧にお話をいただきましてありがとうございました。

予定の時間を大分過ぎてしまいましたが、意見交換を終了とさせていただきます。

協議会委員の皆様方、ご不満な方もたくさんいらっしゃると思いますので、また事務局にそれも含めて、いろいろなご意見をお寄せいただければと思っていますのでよろしくお願いいたします。

それでは、私の進行は以上にさせていただきますして、秋山会長にお返しをさせていただきます。よろしくお願いします。

[秋山会長]

新川副会長、ありがとうございました。

また、委員の皆様方には、大変貴重なご意見をたくさん賜りまして、誠にありがとうございました。なお、言い足りないことがございましたら、事務局へ文書でも提出いただきたいと思います。

それでは、これからの進行を事務局にお返しします。

[事務局]

秋山会長、新川副会長、そして連合協議委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。今日賜りましたご意見、そして本日のご議論をぜひ広域連合の取組につなげてまいりたいと存じます。ぜひ今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第29回関西広域連合協議会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 3時23分